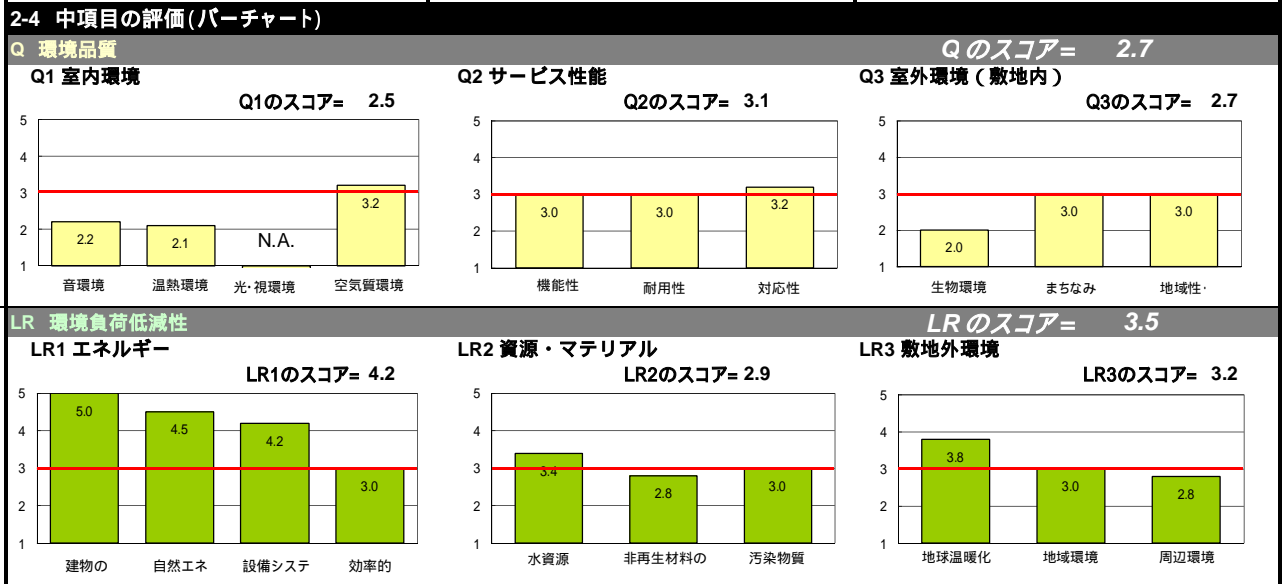
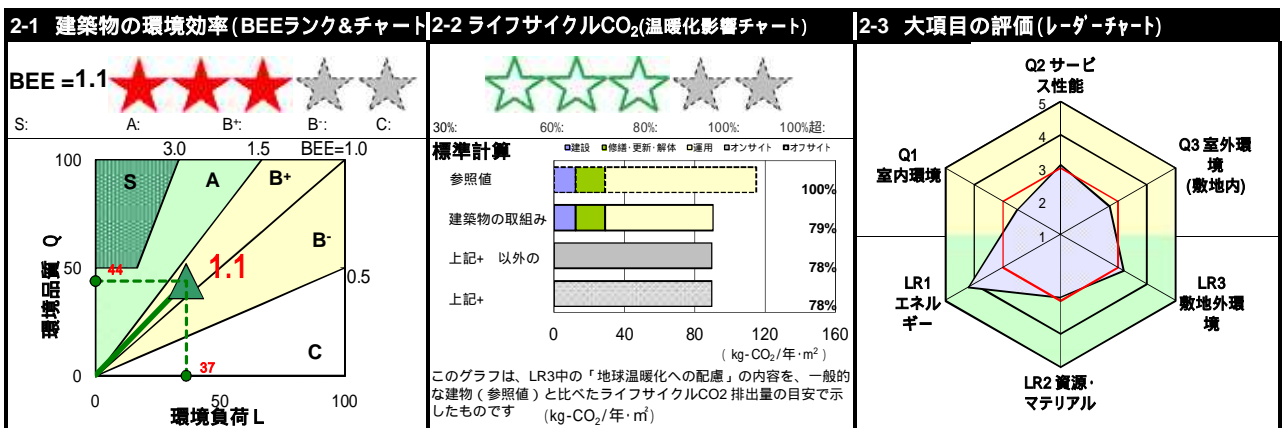


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)湘南台駅前PJ新築工事	階数	地上5F,地下1F
建設地	神奈川県藤沢市湘南台1丁目7-7	構造	S造
用途地域	商業地域,準防火地域	平均居住人員	1,000人
気候区分	地域区分	年間使用時間	4,070時間/年
建物用途	集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年5月 予定	評価の実施日	2013年5月1日
敷地面積	1,416 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社
建築面積	1,139 m ²	確認日	2013年5月1日
延床面積	4,957 m ²	確認者	(株)構想建築設計研究所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項	
総合 周辺建物・周辺環境・周辺住民との調和を踏まえ、地域に受け入れやすい計画とした。	その他 周辺地域において、新たなコミュニティやアソシエーションの場の創出を行った。
Q1 室内環境 Low-eを用いたペアガラスを採用した。、開放的で有りながら、熱負荷を極力抑えられるように努めた。ビルマルの設置に伴い、ゾーン別に冷暖房の切り替えが可能である。	Q2 サービス性能 塩素などによる腐食し難い材料を選定した。また、各所に点検口を設け、メンテナンスを行いやすい計画とした。
Q3 室外環境 (敷地内) 限りある敷地内で、可能な限り緑化を行った。また、雨水対策としても有効な緑化計画とした。	
LR1 エネルギー 太陽光発電パネルの設置やコージェネシステムを導入した。また、潜熱回収型温水ヒーターの導入や高効率機器の個別制御などにより、省エネ化を図った。	LR2 資源・マテリアル 耐久年数が異なる部位の改修を行う必要性が有る場合、主要構造部の道連れ工事を極力抑えた構成とした。
	LR3 敷地外環境 敷地外に対して、騒音被害が出ないように配慮した。また、敷地境界に常緑ヤマボウシなどを植えることで、外壁の圧迫感を緩和する計画とした。管理用車両用駐車スペースを確保した。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される